

鬼道の事例研究

－ 比叡山浄化の事例 －

植村 芳樹

A Case Study for KIDOU － Example for Cleansing Mt. Hiei －

Yoshiki UEMURA

1. はじめに

比叡山は、京の都の裏鬼門として重要な位置にあり、大津京の下「比叡神社(改名後 日吉大社)」が存在する。比叡神社の本体は、三宮様でありお山と呼ばれている位置に存在する。また、このお山には牛尾宮というお社も存在する¹⁾。WWWサーバを利用した史跡紹介システムの構築に関して、CAIと観光案内の考察を文献1で、宗教学的考察を文献2で行っている。本論文では、文献2で述べた三宮様と琵琶湖のホームページについての鬼道の事例研究を報告する。ただし、本論文で述べることに對する信憑性に関しては、読者の判断に委ねることとする。

2. 文献2のホームページの意味

このホームページは、尾張方面から琵琶湖(別名 うみ)を渡って神々が比叡山進行を謀っている様子を描いたものである。この先陣を引率しているのは、「織田信長」である。この写真から、織田勢の陣は塩津あたりまで来ており、奥比叡を睨む形となっている。他方、近江勢は今津あたりに退陣し、陣の大將は「坂上田村麻呂」である。しかしながら、近江勢の本体は比叡平にあり、陣頭指揮は加茂一族の若武者「樹下若宮」である。つまり、近江勢は、誘導作戦を採用しており、尾張勢を引きつけるだけ引きつけ、本体が奥比叡から脱兎のごとく翔下り、けちらす策を採用している。

結果として、尾張勢はこの誘導作戦に陥り、矢合に陣を構えたとき、奇襲攻撃とばかり、本体部隊である加茂一族が、夜半に奥比叡から尾張勢の

背後から討ち入り、すきをつかれた尾張勢は蜘蛛の子を散らすように惨敗し、「織田信長」は後の世から去った。

3. 天界でのこの事例に対する意味

人間界の歴史において、織田信長の比叡山焼き討ちの変は有名な出来事である。人間界においても、身内に不幸事があれば、1年間喪に伏し神社に参拝することは許されず、また神職が葬儀に参列した場合、現在でも1週間程度(注 神社により異なる)が、その神社に勤められなくなる風習があることは事実である。従って、織田信長の比叡山焼き討ちによって、比叡山が汚れた血(別名 荒血)で汚されたことになる。

以上のことより、比叡山の神々は、比叡山に留まれなくなった。しかしながら、1章で述べたとおり、比叡山は京の都の守護身であり、都に天皇家が居られる間は、離れることは許されず、明治維新まで我慢されていたわけである。数世紀が経過する内に人間界では、単なる歴史の教科書の1ページに「比叡山焼き討ち」が掲載され、遠い過去のこのように人間界では忘れ去られていたのが現状である。

天界では、時間・空間・距離というものはなく、この事実を消し去り、日本中の神々の記憶から消し去らねば、いつまでたっても比叡山は神々が住めない状態であった。この状態を回避するため、2章で述べた天界での出来事が生じた。この天界での出来事により、荒血で汚されることなく神聖な領域として比叡山が復活したと言える。

4. 元来の天界の意図

人間の神への暴挙により、比叡山が荒血で汚されず、神聖な領域として存在していた場合、比叡山を太陽神のシンボルとしようという動きがあった。戦前まで、日本人は朝日覚たとき、太陽（通称 おてんとう様）に拝礼する風習があり、これは原始宗教の太陽神から派生していたものと考えられる。

比叡山に太陽神のご本体が来られた場合、京都の安泰はもちろんのこと、「護国平和」のシンボルとして比叡山が位置づけされる予定であり、これが現実であったなら、徳川政権も短命であったと考えられる。

比叡山が荒血で汚されず、神聖な領域となった今、天界の意図の通り、太陽神のご本体である志摩の国の神々が比叡山に来られ、魂の入れ替えが生じてもおかしくない状況になった。従って、天界の元々の意図の通り、魂の入れ替えが生じ、比叡山もまた太陽神の象徴となった。

ところで、三宮様のお気持ちの整理については、長年住み慣れた土地を離れ異国に移ることに対しての不安と混沌があった。まず、この天界の意図を作成された方の説得に対して、いくら「護国平和」のためとはいえ、無理があったため、血筋の方のご協力で説得が成功し、人間の神への暴挙の前の天界の意図通りの結果となった。

5. 考察

本論文での鬼道に関する事例紹介については、信憑性の問題が多々ある。しかしながら、天界の手帳のスケジュールを乱したのは、人間の神への暴挙であり、比叡山が荒血で汚れていたことは事実である。この事実を換えるには、天界でもう一度近江勢の勝利の策を考え、比叡山に尾張勢を踏み込ませないこと意外ない。文献2の三宮様の現れ方から察すると、三宮様自信が、織田信長を復活させ、坂上田村麻呂の復活と加茂一族の復活を意図された気配がある。つまり、三宮様がお社から出られたことにより、比叡山が空き家となりうみをわざと東国の神々に渡らせたと考えられる。三宮様自身は、人間の神への暴挙が生じる前の天界の意図を了承されていたと考えられる。また、逆に志摩の国の神々も了承されていたと考えられる。人間の神への暴挙のため、三宮様の何世紀に

もわたる苦痛は耐え難いものでないかと察せられる。したがって、三宮様の比叡山への愛着がきつくなり、三宮様の血筋の方の復活も生じたのではないかと考えられる。

6. おわりに

本論文で述べたことに関しての信憑性は、読者の判断に委ねることとし、天界のスケジュールを元に戻すという鬼道の一端の事例を紹介した。本当の意味の鬼道とは、天界のスケジュールを作成することである。今回の事例は、天界のスケジュールを作成したわけではなく、真の意味の鬼道ではない。しかしながら、数世紀に渡る天界のスケジュール停止状態回避という意味では、鬼道の範疇に入るものと考えられる。尚、本論文ではあえて、天界の意図を作成され三宮様を説得された方、三宮様の血筋の方及び志摩の神々のどなたと魂の入れ替えがあったかについては、触れない。理由は、著者自身の信仰上の問題からである。したがって、著者自身比叡神社を崇拝しているものではなく、客観性を失うことなく本論文をまとめたつもりである。また、比叡山の神々全体とあるふたつの神山の神々との総入れ替えが生じたことについても、どこの神山かについては触れない。理由は、比叡山や他の神山を信仰されている方への配慮とその崇拝者の本論文に対する信憑性の問題からである。

参考文献

1. 植村芳樹：WWW サーバによる史跡紹介システムの試作
— 歴史学教材と観光案内の観点から —
三重大学教育学部研究紀要第 50 巻、平成 10 年度
2. 植村芳樹：WWW サーバによる史跡紹介システムの試作
— 宗教学の観点から —
三重大学教育学部研究紀要第 51 巻、平成 11 年度